

第146回 経営協議会（定例）議事要旨

日 時 令和6年1月25日（木）14:57～16:41
場 所 事務局特別会議室（4階）

議題1. 令和5年人事院勧告への本学の対応及び関係規則等の一部改正について（資料1）

議題2. 中期目標・中期計画の変更について（資料2）

議題3. 令和6年度学内予算編成方針（案）について（資料3）

報告事項1. 令和6年度運営費交付金等予定額について（資料4）

報告事項2. 厚生労働省令等の改正（R6.4.1施行）に伴う専門業務型裁量労働制の労使協定の追加事項について（資料5）

報告事項3. 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料6）

報告事項4. 記者発表事項等について（資料7）

協議事項1. 共同獣医学部の経営報告（資料8）

その他

[出席委員] 12名

佐野学長

(理事) 井戸、橋本、岩井、武隈、田頭

(学内委員) 坂本

(学外有識者) 上村、坪内、津曲、中村、福元

[欠席委員] 3名

(理事)

(学外有識者) 池田、下鶴、山野

[オブザーバー]

(理事) 石窪、萩元

(監事) 日高、松枝

(副学長) 郡山

(学部長等) 松田、有倉、大脇、西村、三角、橋口

《以下 Web会議参加》

(学部長等) 小山、木方、寺岡、西、山口、中原、寺田

冒頭、学長から、令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に哀悼の意が表され、黙祷が行われた。

議題1. 令和5年人事院勧告への本学の対応及び関係規則等の一部改正について（資料1）

学長から、令和5年人事院勧告への本学の対応及び関係規則等の一部改正について諮られ、橋本理事から、人事院勧告どおりに国家公務員の給与改定が実施されたことを踏まえ、本学も同様

に給与改定を実施し、関係規則等を一部改正することについて、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

議題2. 中期目標・中期計画の変更について(資料2)

学長から、中期目標・中期計画の変更について諮られ、岩井理事から、「Ⅷ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画」、「別表1 学部、研究科等及び収容定員」及び「別表2 教育関係共同利用拠点」の変更について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

議題3. 令和6年度学内予算編成方針(案)について(資料3)

学長から、令和6年度学内予算編成方針(案)について諮られ、田頭理事から、令和6年度における運営費交付金等予定額伝達を踏まえた、学内当初予算を作成する際に予算編成の具体的な考え方を示した基本方針となる令和6年度学内予算編成方針(案)について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

報告事項1. 令和6年度運営費交付金等予定額について(資料4)

田頭理事から、令和6年度の国立大学法人全体の予算状況及び本学に伝達された事項について、資料に基づき説明があった。

報告事項2. 厚生労働省令等の改正(R6.4.1施行)に伴う専門業務型裁量労働制の労使協定の追加事項について(資料5)

厚生労働省令等の改正(R6.4.1施行)に伴う専門業務型裁量労働制の労使協定の追加事項について、資料による報告があった。

報告事項3. 本学教育研究評議会での審議事項等について(資料6)

本学教育研究評議会での審議事項等について、資料による報告があった。

報告事項4. 記者発表事項等について(資料7)

本学の最近の主な記者発表事項等の記事を添付していることについて、資料による報告があった。

協議事項1. 共同獣医学部の経営報告(資料8)

学長から、今回の協議事項は、共同獣医学部の経営報告について意見交換するため提案した旨説明があり、引き続き、三角共同獣医学部長から、共同獣医学部の教育・研究・経営報告について、資料に基づき説明があり、説明の後、各委員から次のような意見等があった。

・新しく畜産学科や南九州畜産獣医学教育研究センターができ、今後南九州地域において、特に産業動物に関する畜産拠点になっていくことが想定されるが、既存のコンソーシアム等も含めた、宮崎大学及び宮崎県との連携はどのような状況になっているか。また、南九州地域全体の畜産について将来的な構想を持っているか。

・水産学部、農学部においては、海外からの留学生も多くなってきていると思うが、共同獣医学部に入りたい留学生も増えてくるのか。また、留学生が増加してくる場合、教育認証としてはJGAPではなく、グローバルな視点でアジアや世界を見ていく必要もあると思うが、これらについて、どのような構想を持っているか。

- ・毎年30名程度の卒業生がおり、9割程度が獣医師となっているが、市中の状況を見ると動物病院が増えている印象があり、伴侶動物の獣医師が多く、産業動物の獣医師が少ない状況にあると思う。実際、産業動物の獣医師は足りているのか。また、産業動物の獣医師を増やすために、大学としてどのような取組を実施しているか。
- ・南九州畜産獣医学教育研究センターにおいて、研究面も含めた地域の活性化に繋がる戦略について教示いただきたい。また、本センターにおける取組は該当地域においても存在意義が出てきて、鹿児島大学の地域貢献にも繋がると思うので、今後も是非継続していただきたい。

その他

次回（定例）は、令和6年3月13日（水）15時00分頃からとなった。